

平成24年度 第4回化学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年10月1日（月） 17:30～20:30

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：幅田委員長・堀合副委員長（skype）・及川副委員長（skype）・庄野委員・
武岡委員・木村委員・小林委員・松山委員（skype）
（事務局）井端事務局長・森下主幹・松本職員

IV. 議事録承認

平成24年度第3回委員会議事録案が提案され、承認された。

V. 議事概要

(1) 委員長の開会挨拶

(2) 本日の議事録担当が指名された。

(3) 本日配布の会議資料等について事務局から説明があり、本日の検討項目についての以下の提案があった。

これまで、3年前に検討した「学士力の考察について」のその背景と解説について見直しを行い最終案にまとめる。

昨年検討した教育改善案を実現するために、具体的なモデルについて検討してきたが、「化学教育における教育改善モデル（その1）、（その2）」を他の分野の表現と整合性を取るために一部の修正することについて検討し、最終案とする。

また、教育改善モデル中の「2.2 授業の仕組み」をわかりやすく解説するイメージ図（概念図、流れ図など）の原案をもとに検討を行う。

今回の委員会の結論を経て11月に出版予定の「大学教育への提言」にまとめる作業に入る予定であり、本日の委員会で本年度最後の委員会になる。

また、これまで検討し決定した文書について、他の委員会との整合性を整えるため一部表現を修正する事を検討したい。

（付則：私立大学情報教育協会が、本日文部科学省から情報教育等の功績が評価され表彰されたので井端事務局長は、そのため遅れての参加となった）

(4) 「化学教育における教育改善モデル（その1）」について

これまで検討し決定した文書について、表現を他の委員会との整合性を整えるため修正するが、これまでの委員会で検討した内容と異ならないかを精査し、その一部修正して統一を図った。

(5) 「化学教育における教育改善モデル（その2）」について

これまで検討し決定した文書について、表現を他の委員会との整合性を整えるため（その1）同様に事務局で修正したが、その修正によりこれまで検討した内容と矛盾を生じないか検討し、一部修正した。

(6) モデル（その1）の「2.2の授業の仕組み」に挿入する図について原案をもとに検討し、

学生の学びの場・コンソーシアム・データベース・協賛企業の位置づけ等を検討し、他の委員会とのバランスを考え、図の圧縮作業を行うと共に、表現その他の修正を行なった。なお、最終的な配置・レイアウト・その他は、事務局で行うことになった。ここでは単位の質的保証を行うために授業終了後も学びの場を提供する。ここでの基本的考え方は、教養としての化学の教員による授業に対して、授業終了後もその質的保証のために、繰り返し学べる場を用意して組織でその授業をフォローアップするとか考え方を導入する。

(7) モデル（その2）の「2.2の授業の仕組み」に挿入する図についての検討を、原案をもとに行なった。化学関連分野を専門とする学生の初年次の化学基礎の授業は、講義とグループディスカッションを併用するとともに、教員コンソーシアムによる達成度評価システムを活用して行う。その質的保証を行うためICTプラットフォームを利用して繰り返し学べる場を提供する。その場合、教員・ファシリテーターなどが参加して補助することとする。その後、物理化学・有機化学・無機化学などの専門教科の教育に連続する。また、データベース活用・協賛企業の位置づけ等を検討した。その後は、他の部会とのバランスを考え、表現の修正を行なった。なお、最終的な配置、その他は、事務局で行うことになった。

(8) 上記の検討を持って今年度の委員会を終了した。

以上